

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

“一粒の真珠が織りなす炭素の国際連携”

—グリーン技術—

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

Front-end loading in new product development

“A Pearl of Carbon Weaving International Collaboration”

- Green technology -

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords

CO₂固定化/炭素の地産地消/Ballconomy/国際連携/インド (FICCI) /スウェーデン (マルメ市) /持続可能性/課題解決型アプローチ/政策共鳴型アプローチ/一粒の真珠

CO₂ Fixation/ Local Production & Local Consumption of CO₂/ Ballconomy/ International Collaboration/ India (FICCI)/ Sweden (Malmö City)/ Sustainability/ Problem-Solving Approach/ Policy Resonance Approach/ A Pearl Born from CO₂

2025 年もあますところ 1 カ月となりました。本年は、皆様にとりまして、どのような年であったでしょうか。弊社に置きましても、いろいろな出来事が遭遇し、しかしながら、自立という道を力強く開拓することができ、特に、一粒の真珠である炭素を通して、国際連携が進みました。

弊社が掲げる「Ballconomy」は、CO₂の吸収から固定化までの一貫したプロセスを完成させ、年間 100 トン規模の処理設備を立ち上げることで、環境負荷低減と地域経済の強化を同時に実現する新しい社会モデルです。CO₂の固定化により生成される炭素を活用することで、地元企業が競争優位性を確保できる仕組みを構築しました。いわば「CO₂の地産地消」であり、持続可能な未来に向けた新しい経済循環の姿を示しています。

この理念は、国内にとどまらず国際的な関心を引き起こしています。台湾との初期的な接触を経て、弊社はさらにインドとスウェーデンへと視野を広げました。インドでは、産業界と政策の橋渡しを担う商工会議所 (FICCI) を通じて、環境技術の社会実装に向けた議論が始まっています。急速な経済成長と環境課題を抱える同国において、Ballconomy の「課題解決型アプローチ」は大きな可能性を秘めています。

一方、スウェーデンでは、環境都市政策を先進的に推進するマルメ市との連携が進みつつあります。市民参加型の持続可能性モデルと Ballconomy の「象徴的なビジョン」は親和性が高く、自治体レベルでの導入に向けた対話が始まっています。北欧の政策先進地において、Ballconomy は「社会的共鳴型アプローチ」として展開する可能性を持っています。

このように、Ballconomy は「課題解決型」と「政策共鳴型」という二つの軸を持ち、アジアと EU の両輪で国際連携を進めています。CO₂から生まれる一粒真珠のように、小さな技術の結晶が国際的な連携を通じて大きな社会的価値へと育っていく。その歩みは、持続可能な未来に向けた確かな一歩となるでしょう。

As 2025 nears its end, we reflect on a year of challenges and new achievements. Our company has advanced the path of independence, particularly through carbon as a “pearl born from CO₂.” We completed an integrated process from CO₂ absorption to fixation, establishing a facility with 100 tons annual capacity. This enables both environmental impact reduction and regional economic strengthening. By utilizing fixed carbon, local enterprises can secure competitive advantages — a true “local production and local consumption of CO₂.” The concept of Ballconomy embodies this new social model of sustainability. Interest has expanded internationally, beginning with Taiwan and now extending to India and Sweden. In India, through FICCI, discussions on practical implementation of environmental technology have started. In Sweden, collaboration with Malmö City is progressing, aligning Ballconomy with citizen-driven sustainability policies.

Thus, Ballconomy advances on two axes — problem-solving and policy resonance — linking Asia and the EU toward a sustainable future.